

令和6年度

事業報告書

自 令和6年 4月 1日
至 令和7年 3月31日



社会福祉
法人

大阪市港区社会福祉協議会

管理運営部門

法人運営

- 組織構成会員・会員の拡充 会員数 団体・法人 25 個人会員 47
- 善意銀行の運営 預託金 23 千円
払い出し実績 535 千円 ボランティア活動応援資金 14 件
105 千円 ふれあいサロン活動応援資金 3 件
- 港区共同募金会の運営 募金実績 5,307 千円
テーマ型募金「ひとり親世帯への支援」実績 695 千円
配分金 4,588 千円（障がい者団体等への助成等 28 件）
- 日赤大阪府支部港地区業務への協力 8,053 千円（令和 6 年度目標額 6,425 千円超え達成）
- 善意募金事業への協力 6,641 千円（敬老お祝い品、各地区社協への助成金）
- 社会福祉協議会活動の見える化（広報・情報発信の充実）

港区社協だより発行 2 回

区社協キャラクター「くしゃきょん」を活用した会員募集や事業周知



街頭募金

区社協職員・民生委員による街頭募金



テーマ型募金の周知

くしゃきょんピンバッジを作成

あんしんさぽーと事業

- 契約者数 78 名（新規 7 名）
内訳： 認知症高齢者（24 名） 知的障がい者（31 名） 精神障がい者（23 名）
- 障がい者施設連絡会など各種会議及びいきいきサロン、認知症サポーター養成講座など地域のみなさまのつどいの場での事業周知

必要な方により迅速に支援が開始できるよう、待機期間の減少に努めるとともに、民生委員やネットワーク委員など地域の支援者や専門職の方も含め、事業の周知を図りました。早めの制度利用が有効であることから、いきいきサロンや地域のみなさまが集う場などで、事業周知を実施しました。また港区地域包括支援センターと連携し、事業周知のチラシを作成し、介護予防支援の契約時にACPと併せ、事業の周知を行っています。

地域福祉活動の推進

(1) 第3期港区地域福祉活動計画推進にあたっての後方支援

令和6年度は、計画の2年目として、1年目同様、各地域において取組みを話し合う場や振り返る場を設け、地域活動者のみなさまや、関係機関との情報共有をおこないました。また、年度末に行ったまとめの会議では、各地域でこれから特に取り組みたい重点項目を話し合い、次年度に向けての方向性を決めました。

● 計画推進に向けた話し合いの場づくり

地域	振り返り会議①	振り返り会議②
波除	—	3月28日(金)
弁天	11月18日(月)	3月25日(火)
磯路	12月23日(月)	3月13日(木)
南市岡	12月16日(月)	3月17日(月)
市岡	12月2日(月)	3月19日(水)
田中	11月27日(水)	3月19日(水)
三先	11月22日(金)	3月12日(水)
池島	11月10日(日)	3月19日(水)
八幡屋	11月13日(水)	3月12日(水)
港晴	12月25日(月)	3月28日(金)
築港	12月12日(火)	2月26日(水)



振り返り会での集合写真のようす



振り返り会での集合写真のようす

(2) 地域福祉活動の支援

● 地区社協活動の支援

- ・ 地区社協会長会の開催 令和6年7月3日

「第3期地域福祉活動計画の進捗について」、「共同募金配分金事業について」、「善意募金の取組みについて」※敬老のお祝い品の配布について

● 地域ネットワーク委員会活動の支援

- ・ ネットワーク委員長会の開催（毎月第2金曜日）
- ・ ネットワーク委員長・見守りコーディネーター合同研修

12月19日 「発達障がいの理解と支援」

講師：大阪市福祉局 障がい者施策部 障がい福祉課 係長 向井 友美 氏

内容：障害者理解（物理的・精神的バリアフリーについて）



つながりあえる地域みんなと



NW 委員長・見守り CO 合同研修会

- ・ ネットワーク委員会・民生児童委員協議会合同研修
「つながり合える地域みんなと（港）～わたしたちの見守りが地域をつくる～」
11月29日 119名参加
講師：神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 准教授 川本 健太郎 氏

● 地域活動協議会福祉部会活動の支援

地域の实情に合わせて、相談対応などの支援を実施し、地域の福祉推進の目的に沿って区社協が支援した。

● 実態調査に基づく小地域ごとの地域情報の整理

- ・ Happy システムを活用し、全地域の地域情報や地域資源などについての情報を整理

● 定期的な事例検討会の開催

- ・ コミュニティワーク事例検討会の実施 2回
講師：佛教大学 専門職キャリアサポートセンター 金田 喜弘 氏

(3) 子育て支援と青少年、児童、障がい者（児）のための福祉活動

● 港区みんなと子育てしチャオ会（子育て支援連絡会）の運営

- ・ みんなと子育てしチャオ会（子育て支援連絡会）の開催 12回
- ・ 子育て支援情報誌「みなときっず」の発行 4回
- ・ 研修 「こどもの性被害について」

12月11日 25名参加

講師：ウイメンズセンター大阪 カウンセラー 国安 澄江 氏

- ・ 未就学児の保護者の方がいきいきと子育てができるよう各種イベントを開催
「水あそびしチャオ！」 5月29日 悪天候により中止
「みなとキッズパーク」 7月12日 87名（親子37組）
「公園あそびしチャオ！」 10月30日 78名参加（親子34組）



「みなとキッズパーク」



「公園あそびしチャオ！」

● **こどもの居場所実施団体との連携および情報共有の実施**

- ・ 港区こどもの居場所連絡会の開催

第1回 10月10日 参加団体：17団体 オブザーバー：7人

第2回 1月9日 参加団体：15団体 オブザーバー：6人

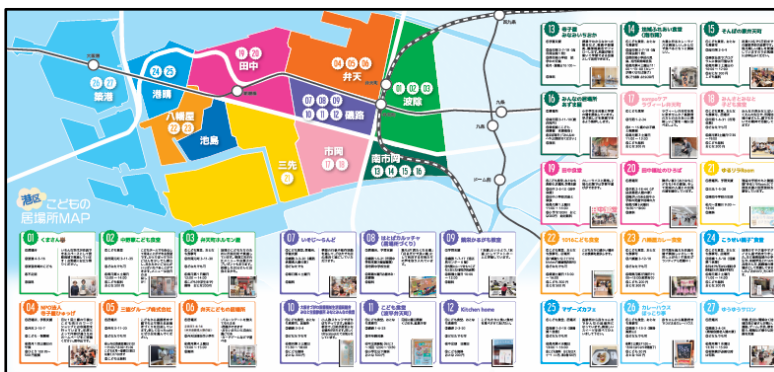
- ・ 連絡会企画会議（PT）の開催

第1回 12月5日 企画メンバー：6人

第2回 2月19日 企画メンバー：5人

- ・ 港区こどもの居場所マップの作成

完成 3月31日 8,000部 ※次年度にかけ、区内16の小・中学校へ配布予定



港区こどもの居場所マップ



こどもの居場所連絡会のようす

● **障がい者団体への活動支援**

- ・ 区自立支援協議会への参画 3回
- ・ 港区障がい者施設連絡会（ポートネット）への参画 12回

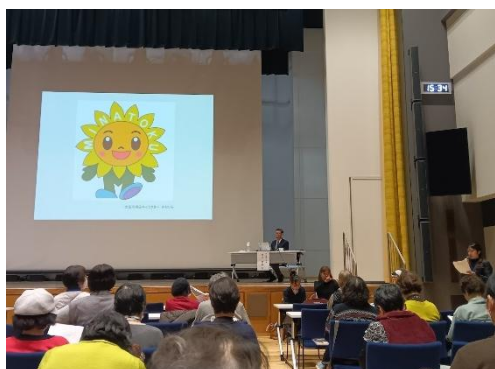
(4) 福祉教育の実施

区内の小中学生をはじめとする地域のみなさまに対し、地域で暮らす高齢・障がい者への理解を深めるために、障がい当事者や地域役員のみなさまの協力を得て福祉教育を実施。

- ・ 小中学校への出前授業の実施 小学校5校、中学校2校 延べ12回
- ・ 認知症キッズサポーター養成講座の実施 小学校1校、中学校1校 延べ2回
- ・ 車いす体験、視覚障がい者の方のお話と盲導犬、高齢者疑似体験、手話体験など
地域防災リーダー、区役所、消防署等と連携し、防災学習を実施
小学校1校、中学校1校 延べ2回

● **みなとこころの講座** 12月7日、区民センター、110名参加

「なぜ睡眠がたいせつなのか」講演会 講師：西口診療所 西口 昌樹 氏



こころの講座「なぜ睡眠がたいせつなのか」



みなとふれあい福祉のひろば

● **手話奉仕員養成講座（手話講習会）の開催** 全38回 参加30名、終了者25名

● **車いす貸出事業**

車椅子、高齢者疑似体験セット、プロジェクターなど 計164回の貸出し（昨年146回）

● **共同募金配分金による事業運営・地域福祉活動団体への支援**

・配分金4,588,914円地域福祉活動団体へ配分（障がい者団体等への助成28件）

・「ひとり親家庭応援プロジェクト！」の実施 9月28日、港区民センター

「ひとり親世帯への食料支援」を目的に集まったテーマ型募金786,189円を活用し、ひとり親家庭260世帯へお米券の配布を実施。ボランティアや企業・関係機関と協力し、相談ブースやカフェスペースなどを設けて開催。



手話奉仕員養成講座（修了式）



ありがとうメッセージ（テーマ型募金）

● **みなと介護家族の会「かもめ会」の事務局**

・定例会 9回

・総会 6月12日 交流会「体のこと 骨格編」

・研修、交流会 3回

10月26日 家族介護支援事業 わが街音楽会
大阪音楽大学講師 上島 千佳 氏 他仲間

12月18日 クリスマス会「しめ縄づくり」
磯路地域ネットワーク委員会 委員長 西 八重子 氏

3月26日 お花見



しめ縄づくり

令和6年度は、昨年につき各地域における第3期地域福祉活動計画の推進に向けた後方支援の取組みに重点を置き、各地域の計画進捗にあわせた情報共有を積極的に行うとともに、計画の折り返し地点を意識し、これからの重点項目について話し合いました。計画のプロジェクトには、地域での見守り活動や、居場所づくり、認知症施策の推進といった、地域の実情に合わせたバラエティ豊かな取組みが行われました。

また、地域の活動者とのコミュニケーションを大切に、顔の見える関係を構築し、誰もが活動に参加できるような工夫をして、地域福祉活動の見える化に努めました。

港区ボランティア・市民活動センター（fuku cafe）の運営

（1）港区ボランティア・市民活動センターの運営

- 運営委員会の開催（年2回）
第1回：6月25日、第2回：2月18日
- 作業部会の開催（月に1回）



運営委員会での意見交換

（2）ボランティア養成・スキルアップ

- ボランティア研修・交流会の実施（5月17日） 計38名参加
- ボランティア養成講座の開催
 - ・ 夏のボランティア体験 実施回数8回、のべ参加者28名
- ボランティア交流会の実施（3月15日） 計42名参加



ボランティア交流会



夏のボランティア体験

（3）ボランティア・市民活動の支援

- ボランティア・市民活動における相談・支援
- 港区ボランティア・市民活動センタースペースを利用した活動支援
 - ・ café de ひまわり（喫茶月1回、コーナー企画など） 喫茶12回
 - ・ カフェナカ企画（ボランティアや企業等による強みを活かしたプチ講座など） 1回
- 助成金「福祉ボランティア応援資金」の交付 実績26.5万円（12グループに払出）
- ボランティア保険取扱窓口 受付件数 621件



おはりでぬいぬい



カフェナカ企画
（食品サンプルづくり）



ボランティア研修会



なんでもおたすけ隊

(4) ボランティアマッチング及びボランティア相談件数

- 援助活動依頼の受付・調整紹介 37 件
- 活動希望者の登録 11 件
- ボランティアグループへの活動の後方支援 36 件
- 関係機関・団体との連携 3 件

(5) 「港区災害ボランティア活動支援センター」での運営協力ボランティアの養成・区民への啓発

- 災害対策委員会の開催 2 回
- 災害ボランティアセンター運営研修（職員向け） 2 月 3 日
- 区社協内 防災初動対応研修 1 月 28 日
- 防災マルシェ（災害ボランティアセンター体験ミニツアー） 12 月 9 日



HUG（避難所運営ゲーム）の開催



防災マルシェ（Asue アリーナ）

(6) 企業の地域貢献・企業の社会的責任の支援

- 地域貢献希望団体・企業の相談・支援・マッチング
- ・ NPO 法人 グッド・ネイバースジャパン
- ・ ユニバーサルスタジオジャパン、イオン株式会社 社会貢献

(7) 啓発・広報・調査研究

- ボランティア活動情報紙「ひまわりのたね」の発行
- ・ 年 6 回発行（奇数月） 発行部数 各 3,000 部
- 区社協ホームページ・SNS での情報発信 公式 L I N E、Instagram、フェイスブックの活用

「誰もが主役になれる場所」をモットーに、港区ボランティア・市民活動センターfuku café（ふくかふえ）を拠点に、様々な活動ができるようにボランティアや市民活動者の後方支援に努めました。特に令和6年度は、新たな取組として港区の登録ボランティアがさらにスキルアップできるように学びの機会として、「港区ボランティア・市民活動センター研修会」を開催しました。また、年に2回実施している港区ボランティア・市民活動センター運営委員会では、運営委員会で出た意見を作業部会で検討し、実施していく循環した形で進めており、今年度は、新たなボランティアへの参画に向け新しい取組も行いながら、港区のボランティア活動の促進に努めていきたいと思っております。

生活支援体制整備事業の受託実施（生活支援コーディネーターの配置）

● 生活支援体制整備事業協議体の開催 年25回※

区内の福祉施設専門職・地域のみなさま・行政が主体となり、生活課題や介護予防の場づくりについて検討。

企業や福祉施設の方と共に地域課題について「周知・広報について」を検討。

ワーキングでは、地域課題や地域の居場所についての情報交換。

※本会議2回

※ワーキング 計23回（第1層協議体ワーキング12回、第2層協議体ワーキング11回）
（合同研修「合理的配慮とは何か？～障がいを理由とする差別をなくすには～」含む）



1/22 第2層協議体 会議



2/20 第1層協議体 会議

● 団塊・シニア世代の地域活動参加促進事業の実施

- ・ 男の百歳体操（月2回、令和7年2月より毎週火曜開催）
- ・ 「男の料理教室」（年2回） 6/27「鶏肉の中華焼き」 11/26「さばのみそ煮」
- ・ ゆうゆうクラブ（団塊世代の男性のボランティアグループ）の活動支援 12回



11/26 男の料理教室②
「さばのみそ煮」



ゆうゆうクラブ 定例会
10/9 思いで残しプロジェクト

● **生活支援体制整備事業 情報紙「ヨリドリ Minato」の発行**
 地域の社会資源や地域での活動についての情報を発信（年2回発行）



● **区社協だより特別号の発行（地域の居場所）**



● **有償たすけあい活動の運営**

- ・「住民の助け合い活動による生活支援事業」
- 大阪市介護予防ポイント事業の枠組みを活用した要支援者等に対して生活支援活動を提供する活動支援
- ※利用にあたっては、利用者が1回100円を活動者に支払う。
- （他に介護予防ポイント【6P=600円】が活動者に付与される）
- 介護予防ポイント登録研修 3回開催（うち1回は個別対応）
- 活動登録者 9名 利用会員 3名
- 活動件数 年間53件
- 活動内容 買い物・移動介助・掃除など



つながりネットのチラシ

・「くしゃきよんのつながりネット」

区社協独自で行っている有償ボランティア活動支援

※利用にあたっては、30分300円を活動者に支払う

- 有償たすけあい講座 1回開催、新規活動登録者 6名
- 活動登録者 64名 利用会員 90名
- 活動件数 年間451件（月平均38件）
- 活動内容 付添、話し相手、軽作業、買い物介助、掃除など



有償たすけあい1日講座

● 資源開発・拡充・継続の支援

開発6件、拡充7件、継続7件、講座28件



地域での居場所立ち上げ
(eスポーツ体験会)



八幡屋公園スマホ撮影講座の開催



地域での百歳体操の拡充

令和6年度は新たな試みとして、eスポーツの活用やスマホのニーズに合わせてスマホサポーター養成（拡充）などに力を入れました。また「百歳体操」の通いの場の立ち上げ支援も積極的に行いました。

周知媒体にも力を入れ、「区社協だより特別号」を作成し、地域の社会資源や地域での活動についての情報を発信し、港区土地区画整理記念・交流会館 みなとラウンジにも掲示するなど多くの区民に知ってもらえるよう働きかけました。区役所での配架コーナーでは随時補充が必要なドインターネットでの情報が錯綜するなか、紙媒体の情報誌の需要を再確認できました。

地域と連携した見守りネットワークの強化

(1) 地域における要援護者の見守りネットワーク強化事業（見守り相談室）

● 要援護者名簿に係る同意確認・名簿整備、未回答者への訪問

- ・令和6年度 新規対象者 438名 再発送 418名 回答数 856名（同意336名、不同意101名）
- ・現在までの対象者数 4,560名（同意者 2,800名、不同意者 997名、未回答 763名）
- ・地域見守りマッピングの推進など 1地域が新たにマップ作成（その他、7地域が更新）

● 孤立世帯等への専門的支援

対応数 延べ1,843件（訪問 545件、電話 867件、来所 360件 その他 71件）

- 相談内容
- 【本人】最近孤独感がひどくなってきており、このままでは鬱になるのではないかと心配しているとの相談。
 - 【家族】娘が就労しておらず引きこもり状態である。どうしたらよいか。
 - 【民生委員】知人とともに相談に来られた独居の高齢女性について、生活の不安を口にしたり、ふらつかれた様子が気になるとの相談。
 - 【地域住民】地域行事の時間に来ていない高齢独居の女性が心配との相談。
 - 【電気屋】いつも来るお客で最近痩せてきている様子の方がおり気になっている。
 - 【郵便局】お金を取られたと発言するお客が窓口に来ている。認知症と思われる。どうしたらよいかとの相談。

- ・講演会 つながり合える地域 港（みんなと）～わたしたちの見守りが 地域をつくる～
講師：神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 准教授 川本 健太郎 氏

- ・居場所づくり会議 ひきこもりなどで孤立していたり社会参加の機会が少ない方が安心して過ごせる場の提供。（野菜作り、散歩、工作など）



公園散策



じゃがいも収穫



水上消防見学



クリスマス飾りづくり

- ・相談支援機関連絡会（みなまるねっと）への参画（年6回）

● 認知症高齢者等の行方不明時の早期発見ネットワークの構築「ひまわりじゃらん」

- ・見守り協力事業者 新規登録 50 事業者（累計 431 事業者）
ひまわりじゃらん事前登録者 新規登録 21 名（累計 130 名）
- ・行方不明者メール配信 1 回
- ・ひまわりじゃらん見守り協力事業者情報交換会&声かけ訓練

開催地域：3月 波除地域、弁天地域、磯路地域、南市岡地域、市岡地域、田中地域

地域見守りマッピングは未実施地域での開催が進み、今年度で全地域での新規実施が終了しました。マッピングの更新や民生・ネットワーク合同委員会での情報共有を通して、名簿を活用した要援護者や気になる人の把握が進められました。

民生委員児童委員協議会と共催で実施した講演会「つながり合える地域 港（みんなと）～わたしたちの見守りが 地域をつくる～」では、孤立化が進む今、地域だからこそできる見守りの重要性や声かけの大切さを再確認することができました。

港区包括圏域の協力者・事業者を対象とした「ひまわりじゃらん見守り協力事業者情報交換会」を実施し、協力者同士や関係機関とのネットワークの強化を図りました。声かけ訓練を取り入れることで、認知症の人への対応についてより実践的に学ぶ機会となりました。

（2）港区地域福祉サポート事業の受託運営

● 地域見守りコーディネーターとの連携による要援護者の個別支援のためのコーディネート活動

- ①地域住民にいちばん身近な相談者としての「地域見守りコーディネーター」の配置
- ②福祉専門職との連携やつなぎ 相談支援件数 約10,000件
- ③地域見守りコーディネーター連絡会 毎月第3木曜日開催

- ・各地域の情報交換、事例検討
- ・ネットワーク委員長との合同研修

（合理的配慮とは何か？～障がい理由とする差別をなくすには～）

- ④各種研修や地域ケア会議、包括運営協議会、協議体（生活支援体制整備事業）への参加



くらしサポーター（左）による差し入れの様子

⑤事業周知（各地域ネットワーク委員会での周知など）

● **支え合いのためのマッチングシステムの運用**

①見守りコーディネーターによる「くらしサポーター」の発掘 サポーター数 318名
②「くらしサポーター」への活動依頼や活動報告の受付 マッチング数 約48,000件

● **地域での見守り強化の推進「見守り協力事業者の登録拡充」**

見守りコーディネーターによる「見守り協力事業者」の発掘 登録数 312事業

生活困窮者自立支援事業（受託機関：令和4年度～令和6年度）

3年間の受託機関の2年目（社会福祉法人みなと寮との共同受託）

区社協における個別相談支援部門との連携により生活困窮者や社会的孤立、ひきこもり状態にある方へのきめ細かな支援を実施。

- 相談支援機関連絡会「みなまるネット」において関係機関とのさらなる関係構築をはかる
- 就労支援・家計相談
- アウトリーチ機能の強化
- 事例報告及び各関係機関の意見交換会の開催

生活福祉資金貸付事業

● **世帯の自立や生活の安定のための貸付にかかる相談**

資金種別	電話	来所・訪問
福祉資金	135件	99件
教育支援資金	126件	93件
緊急小口資金	164件	103件
総合支援資金	26件	21件
償還等フォローアップに関する相談	453件	299件

● **生活困窮者自立支援事業（くらしサポートセンター）との連携**

介護予防事業

● **大阪市介護予防事業 いきいきサロン 月1回**

17会場 述べ128回 3,315名

● **ひまわり健康教室 毎週金曜日 週1回開催（年70回）延べ355名**



地域でのいきいきサロン（ヤクルト）



地域でのいきいきサロン（3B体操）

通所介護事業（港区在宅デイサービスセンターひまわり）

（1）地域密着型通所介護・予防通所介護事業の運営

延べ年間利用者数 3,627名
新規登録者数 9名
平均介護度 2
平均年齢 85.1歳（男性85.5歳 女性85歳）

- 口腔機能向上サービス
- レクリエーション

個別訓練メニューの実施（日常動作訓練など）、
手作業（切り絵、ちぎり絵、折り紙）
リラクゼーションメニュー
お誕生日会、お花見、夏祭り、
運動会、演芸大会、クリスマス会、忘年会（鍋）、節分厄除け



利用者によるお花見会のようす

- 運営推進会議の開催（①令和5年10月書面開催）

- （1）事業所による「抱え込み」を防止し、サービスの質の確保と地域に開かれた事業所であるため、利用者・地域住民の代表者・地域包括支援センターの職員などに対し、事業運営の内容や提供しているサービスの内容等について報告、意見交換などを実施



みんなで夏祭りに参加しました

（2）港区デイ事業者連絡会の運営（事務局）

デイサービス・デイケアの事業所施設相互の情報交換・連携を目的に開催

- ※ 新型コロナウイルス感染予防のため書面開催
- ※

（3）福祉教育等への協力

職場体験学習や実習生の受け入れなどに協力

（4）いきがい活動の場を提供（ボランティアグループの受け入れ）

ボランティア活動等の場を提供し、他の地域活動への参加の拡充を図る。

新型コロナウイルスの5類感染症移行後においても、対策を徹底し、できる限り利用者さまに寄り添った家庭的な雰囲気味わっていただけるようなプログラムの実施に努めました。令和3年度から実施しているサークル活動においても、引き続きご利用者さまの得意を活かした活動に取り組んでいただけるよう、「園芸部（プランターで花や作物を栽培）」、「手芸部（小物やパッチワークの作品づくり）」などを取り入れており、利用者の満足向上につながっています。

地域包括支援センター部門

地域包括ケアの推進

港区地域包括支援センター 担当圏域（波除・弁天・磯路・南市岡・市岡・田中）

高齢者人口：12,786人 高齢化率23.9%（港区27.7%）（R7.3末現在）

地域や関係機関と連携、協働し必要な方が早めに相談窓口につながることを目的に、圏域内のスーパーやコンビニを周り、周知活動を行いました。高齢者に身近な場所であるスーパー、信用組合、喫茶店での出張相談会を実施したことで、相談につながったケースがありました。また、弁天地域では地域の介護事業者と地域の活動者の顔の見える関係づくりを目的とした小地域ケア会議を開催しました。

- **総合相談** 延べ10,380件（前年度7,374件）
うち認知症に関すること 延べ3,974件（前年度2,269件）
相談実人員1,082人（前年度953人）、相談経路（本人2,309件、家族1,620件、ケアマネジャー2,030件 他）
- **権利擁護・高齢者虐待防止**
通報・相談件数：27件（14件が虐待認定） サービス利用調整会議への参加63回
虐待に関する相談：937件 成年後見制度の活用に関する相談：213件
- **地域ケア会議**
（複合課題のあるハイリスク家族の共有や早期介入のための支援システム構築）
個別ケース：24回 地域課題抽出：1回
自立支援型ケアマネジメント検討会議 大会議6回 小会議2回



令和6年11月18日
弁天地域での小地域ケア会議



令和7年1月27日
課題抽出のための地域ケア会議

- **認知症高齢者支援の取り組み**
 - ・ 認知症施策推進事業との連携、認知症学ぼう会（11/20）、専門職向け講演会（12/17）、一般向け講演会（2/22）
 - ・ 見守り協力事業者情報交換会への参画（3/11）
- **専門機関との連携強化**
 - ・ 認知症総合支援事業 ・ 在宅医療・介護連携推進事業 ・ 生活支援体制整備事業との連携
 - ・ 相談支援機関連絡会（みなまるねっと）の実施（年6回）
- **ケアマネジャーの後方支援**

港区内32事業所のうち18事業所が港区地域包括支援センター圏域
包括的継続的ケアマネジメント：ケアマネポートと共催して研修会の開催 振り返り会（1/21）、カスハラ研修（2/19）、包括の事業説明と座談会（3/19）
- **地域との関係づくり**

地域の行事に参加122回、圏域内のスーパーとコンビニを周り、周知活動。
スーパーアプロ、のぞみ信用組合、喫茶店での出張相談会の実施、弁天地域での小地域ケア会議

老人福祉センター部門

1. 老人福祉センターの指定管理運営

- 登録者数：571名（前年増減数 +308名） 利用者数：16,015名（前年増減数 +5,570名）
⇒「センターだより」増刷（7,293枚）、「区社協だより」トップ面掲載
「広報みなと」に継続エントリー

- 高齢者の居場所づくり、孤立防止の取組み

「スマートフォン相談会」：7回 計47名 「お誕生会」：4回 計371名
「センター杯 将棋大会」：2回 計22名 「健康麻雀教室」：84回 計1,766名



「健康麻雀 B教室（初級者）」



「12月お誕生会 演芸披露」

- 健康づくりと介護予防の促進

介護予防事業：いきいきサロン 12回 計117名
健康講座：「3B体操」2回 計49名 「AIによる歩行改善体操」2回 計32名
「民間企業（ヤクルト・明治・雪印）」 8回 計214名
「介護保険制度講座」（地域包括支援センター） 1回 計42名
「社会体験型健康ウォーキング・ポ～トさん歩」 3回 計28名

- 健康・体力づくり事業

「いきいき百歳体操」：176回 計1,526名
「ポ～トさん健康クラブ」：利用者の要望が高い競技を実施
ボッチャ、スリーアイズ、eスポーツ、グラウンドゴルフ、健康麻雀

- 生きがい探求講座・教養講

館長・職員講座：「物づくりDIY」10回 計83名
「脳トレ健康教室」2回 計30名

大阪ガス「うた広場」1回 計58名
資生堂「いきいき美容教室」1回 計26名
「アロマハンドトリートメント講座」1回 計31名
「ミュージック・ケア（音楽療法）」3回 計88名



「大阪ガス うた広場」



「ミュージック・ケア（音楽療法）」

● **高齢者の自主的な地域福祉活動支援(人材育成)**

自主サークル代表者連絡会 4回 計81名

サークル設立支援講座 15回 計156名

⇒令和5年度13団体から25団体に増加 年間473回 6,144名が参加

ボランティア推進会議 2回 計5名 (立ち上げ時2名から8名に増加)

● **地域間交流・世代間交流事業**

盆踊り大会(練習日1日含む): 2回 計89名

子ども・子育てプラザ共同企画: 3回(七夕、クリスマスツリー飾り、eスポーツ交流会)

● **啓発活動・啓発講座**

作品展示会 1回(3日間) 計198名

教室合同発表会 1回 計211名

作品展示会出展支援講座 4回計 計32名

令和6年度は(1)「健康づくりと介護予防」(2)「社会的役割・生きがいくくり(高齢者自身が担い手となることのできるような活動支援)」(3)「相談・情報発信機能の充実」(4)「地域課題の解決に向けた取組み」(5)「駅直結の複合館のメリットを活かした取組み」の5項目を基本方針の柱として当法人が目指す「ささえあえる・つなげる・ひろげる」の視点を持ち取組みました。

交流会館への移転により環境が大きく変化しましたので、従前より育んできた資産を大切にしながらも新たな資産形成に向けた基礎づくり元年としました。広報活動の積極展開、実施事業数の拡大の両輪が機能し登録者数、利用者数が飛躍的に増加いたしました。登録者数の増加に伴い求めるニーズがより多様化しており前年度の延長戦上でセンター運営をしては鮮度感、魅力感が劣化していくことは明らかです。

利用者の満足度向上に向け、令和6年度事業をさら進化、深耕に向けて注力して参る所存です。